

平成 22 年度再評価対象事業一覧表

(事業採択後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)	備考
3	道路整備交付金事業 一般県道 加倉仮屋港線 事業主体：県 事業地：東松浦郡玄海町 有浦上～新田	本路線は、唐津市鎮西町加倉を起点とし、玄海町新田の国道 204 号とを結ぶ幹線道路であり、原発災害時の緊急避難路に指定されている。 計画区間は、玄海町の市街地部であり、近くには玄海町役場や有徳小学校があることから、通行車両や歩行者が多い。 しかしながら、車道が 1 車線と道路幅員が狭い上、歩道未設置区間があり、危険な状態となっている。 以上のことから、バイパス整備により、交通の円滑化と歩行者の安全確保を図る。	全体事業費：24.0 億円 工期：H13～H24 事業内容 延長 L=2,000m 幅員 W=12.0(6.5)m 改良工 L=2,000m 舗装工 L=2,000m 測定 1 式 用地補償 1 式	H21 末進捗率：約 66% (事業費ベース) (年平均進捗率 7%) ○用地補償は 5 割完了	・交通量の推移 H9 4,764台/日 (基準) H11 4,960台/日 (1.04) H17 4,951台/日 (1.04) 原発避難路として整備を進めている中、平成 21 年 12 月から九州電力玄海原子力発電所でプルサーマルが始められたため、原子力発電に対する周辺住民の関心が高まっている。 玄海町の 3 つの小学校 (有浦小学校、牟形小学校、仮屋小学校) が統合し、元の有浦小学校が新しく有徳小学校となり、児童数が増えている。 有浦地区 148人 } 248人 仮屋地区 51人 } 牟形地区 49人 } (H21データ) 平成 11 年度に「日本の棚田百選」に選ばれた「浜の浦の棚田」が、平成 19 年 4 月に「恋人の聖地」として認定されたことから、観光ルートとして、交通量の増加が予想される。	事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。 B/C = 1.4	(コスト削減) ・再生資材の利用促進を図っている。 ・工事で発生する残土を盛土等に流用する。 (代替案の検討) ・特になし	着手より 10 年経過のため再評価	継続 (理由) 事業の必要性に変化が無い。 現在も、依然として交通の円滑化と交通安全の確保が出来ていないことから、引き続き事業を継続したい。	

